

2018年度 決算説明会 質疑応答要旨

お断り：この要旨は決算説明会での質疑をご参考として掲載するものであり、一部補足を含め簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

記

1. 開催日 : 2019年5月21日(火)
2. 場所 : 本社 会議室
3. 質疑応答内容 :

<Q1>

設備投資について、2018年度の実績と2019年度の見通しの主な内容を教えてほしい。

<A1>

2018年度はIKEとの事業統合に伴って資産に計上されるものが含まれている。
一方2019年度については、消化ガス発電事業への投資を計画している。

<Q2>

2019年度の設備投資先である消化ガス発電事業について、従来との違いを教えてほしい？

<A2>

スキームとしては大きな違いはないが、事業規模として少し大きくなる。
地方自治体は下水処理プロセスにて発生する消化ガスを売却することで収入を得、消化ガス発電設備を設置する民間企業としては、その消化ガスを購入し発電を行い、電力会社への売電により、事業を構築することができる。ここ数年来このようなビジネスモデルが出てきている。

<Q3>

資料P.23)

中期経営計画 2020年度目標について、海外売上高では108億円を計画しているが、廃棄物関連事業と水処理関連事業の内訳を教えてほしい。

<A3>

海外については、廃棄物処理関連事業が7割程度、水処理関連事業が3割程度である。
廃棄物処理関連事業は英国を中心に、水処理関連事業はベトナム、カンボジア、ミャンマーを中心に引き続き進めていきたい。

<Q4>

資料 P. 40)

下水由来バイオガス（消化ガス）からの水素製造に関して、今後の展望を教えてください。

<A4>

下水由来バイオガスからの水素製造については、現在実証研究中であり、未だ完全に実用化には至っていないが、都市部近郊の下水処理場にて大量の消化ガスから水素を製造することができると、水素ステーションへの水素供給源として、期待できるのではないかと考えている。

<Q5>

資料 P. 40)

下水由来バイオガス（消化ガス）からの水素製造の実用化の時期は？

<A5>

現在実証運転を開始している国土交通省 B-DASH プロジェクトにおいては、実際に製造した水素を燃料電池自動車に充填して走行させることはできており、多面的なバイオガス利活用による安定的な事業性、スケールアップ等についての実証が中心である。地方自治体、プラントメーカー等民間企業の事業への関わり方についても様々なバリエーションがあろうかと考えている。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在把握している情報、及び合理的であると判断する前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上